

誰一人取り残されない学びの保障と不登校を考える NITS カフェ 開催要項

1 趣 旨

教職大学院を中心とした大学と教育委員会が連携し、指標をふまえた教職生活全体を通じた教員の能力形成が求められている。

今回の「カフェ」では、「誰一人取り残されない学び」について探求するとともに、不登校に関する学校や地域のあり方や実践について、立場、年齢や経験等の異なる参加者が、和やかで豊かな「カフェ」の中で協議や意見交換を行うことをとおして、教育実践を牽引できる教職員の力量形成と成長を図ることとする。

2 主 催

山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）・教育学部
独立行政法人教職員支援機構、同 山口大学センター

3 共 催

山口県教育委員会・山口市教育委員会

4 開催日時

令和6年12月21日（土） 13:00～17:30

5 開催場所

公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」（2階 サファイアホール）
〒753-0056 山口市湯田温泉 3-2-7 Tel:083-922-0811

6 参加者

現職教職員、教員志望学生、教育委員会関係者、保護者、地域教育関係者や大学教職員 等

7 研修内容等

(1) 開会行事

挨拶 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二

(2) 講演

テーマ 「学びにアクセスできない子どもたちと関わって ～不登校をどう捉えるか～」
講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授
公益社団法人学校教育開発研究所（AISES） 代表理事 栗 原 慎 二

(3) 実践事例発表、ちゃぶ台協議

事例発表① 「中学校における不登校への取り組み」
山口市立大内中学校 教諭（サポート教員アドバイザー） 中 川 真 治

事例発表② 「オンライン活用による不登校児童の支援」
萩市立川上小学校 校長 山 本 豊 三

指導助言 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授
公益社団法人学校教育開発研究所（AISES） 代表理事 栗 原 慎 二

(4) 閉会行事

講評 山口県教育庁学校安全・体育課生徒指導グループ 指導主事 中 村 研 一

挨拶 山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻 専攻長 佐々木 司

8 その他

(1) 本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構「令和6年度 NITS・教職大学院・教育委員会等コラボ研修プログラム支援事業」受託経費、同「山口大学センター」運営経費、山口大学教育学部「ちゃぶ台研修部」事業経費等により運営される。

(2) 今後の「新型コロナ」ウィルス感染動向や開催地の状況等に応じて、開催形態の変更（オンライン研修等）、延期や中止の場合がある。



NITS・山口大学教職大学院・長門市教育委員会・山口県教育委員会コラボ研修プログラム（NITS-Café）学級通信「学校を核とした地域ぐるみの防災教育カフェ（11.9-10）」
2024.11.16 NITS 山口大学センター・山口大学教職大学院



災害大国、日本！ 私たちに何ができる？ 学校で、地域で何ができる？ 子どもたちの命を守るために、教職員に何ができる？ 1泊2日のNITSカフェ@山口県長門市

今年度の「NITS-Café」は3本立て。その1本目は11月9日と10日、長門市（山口県油谷青少年自然の家と青海島共和国）を会場にした「防災教育」のセミナーです。教職大学院・NITS（教職員支援機構）山口大学センターと長門市・山口県教育委員会が主催する今回の「NITS-Café」には、県内各地から、延べ人数で、学校関係者（教職員、学校運営協議会委員）41人、学生25人、指導者5人、教育委員会関係者3人、施設職員4人、大学教職員16人の94人が参加してくれました。

やっぱり.....「カフェ」はいいですね。長門市内からご参加の先生のコメントには、「一番心に残ったことは、NITS カフェの研修の在り方、スタイルです。学生、現役教職員、県・市教委関係者や地域の方々が、共に学び、講義やプレゼンを聞いた後に対話する場があって。大学の先生もグループに入り、名前を呼んで話しかけ、研修に温かく迎えてくださったことも嬉しかったです。ありがとうございました。また一緒に学ばせていただける機会がありましたら幸いです。」とありました。

心地よい BGM が流れ、気の合う仲間と「お茶」している感覚、それでいて大切な「学び」があって「元気」になる感覚。

2日間の「NITS-café」の概要を報告します。



11月9日（土）山口県油谷青少年自然の家

開会行事

「ご来店ありがとうございます！」で始まった山口大学教職大学院（大学院教育学研究科教職実践高度化専攻）の佐々木司専攻長の開会挨拶に続いて、こちらは「ようこそ！油谷へ！」で、会場の山口県油谷青少年自然の家の田村洋子所長から歓迎挨拶をいただきました。

キリリとした空気感とホンワカした温かさの中、セミナーがスタートしました。



講演 学校や地域における防災教育のあり方 岩手県立図書館 館長 森本晋也 さん

東日本大震災前に釜石市立釜石東中学校で防災教育に、震災後には岩手県教育委員会で復興教育に、そして文部科学省では安全教育調査官として学校安全全般に携わってこられた森本晋也先生。「事件や事故、災害が起きてから学校安全に取り組むのではなく、普段から学校安全に取り組むこと、学校を核として地域ぐるみで取り組むことや学校安全を見直して実効性を高めることが大切！」と教えていただきました。森本先生、遠く岩手からのご来県、中身の濃いご講演、本当にありがとうございました。

参加者のコメントから

・東日本大震災については、資料や動画等を見たり研修の中で取り上げられたりしていたが、実際にその場で対応をされたり、その後について調査されたりしてのお話は大変貴重であった。「防災」を考える時の学校の在り方について再度考え直す機会となった。

「山口県は地震等の災害が少なく津波の心配もあまりない」と思われがちで、自分自身もそのように感じてきたが、そのような油断が一番危険である。子どもたちの命を守り、地域の核となる学校の存在を考えると、日ごろからの訓練や意識の転換が今後の課題と感じた。「自分の身は自分で守る」と発言し、実際に津波の被害にあった際にも一人で避難した子、それを信じて迎えに行かず、避難先に向かった家族、そのような意識をもてる児童を育てたいと思った。（小学校 教諭）



・心に残ったのは、「防災で大事なものは日頃の生活」ということです。「フェーズフリー」という言葉を初めて知って、日常の習慣や生活が非常時に生きて

くるのだなと感じました。そのような視点ももって、子どもたちの支援を行っていきたいと思います。また、子どもの印象に残る防災教育は、子どもが課題意識をもつ、子どもが主体的である、家庭・地域も連携することが大事と学び、この3つは防災に限らずどの教育でもそうだということにハッとさせられました。様々な実践例やお話が聞けて本当によかったです。（小学校 教諭）

・東日本大震災後（1年8ヶ月後）被災地を訪問したことを思い出した。当時被災地は全く復旧されておらず、学校は瓦礫置き場になっていた。また、校舎や病院は、3・4階まで全壊しており津波の被害の大きさがよくわかったことや、被災された人々は悲しむ暇もなく普段の生活に近づくために毎日を送っており、報道では知らない現実を目の当たりにしたことを思い出した。被災地の方から「この教訓を風化させてほしくない」という願いを聞いたことを忘れかけていたように感じとても反省している。（長門市内中学校 教頭）

・東日本大震災前から防災教育に携わられ、震災に直接関わられているので、話されるひとこと一言の言葉に重みを感じられた。震災を経た課題を5つ挙げられた（①マニュアルが本当に実効性があるものか、②学校間、地域間の格差を考慮しているか、③地域の現状を踏まえた防災計画になっているか、④地域のいろいろな機関との連携、⑤子どもがいかに主体的に関わっていくか）が、生徒の命を預かるものとして、勤務している場所がどこであれ、常に気に留めておかなければいけないと感じた。特に現任校のことを考えてみると、こと防災に関しては、生徒の主体性を生かした取り組みが全くできていないので、生徒会活動を通じて考えさせてみたい。（長門市内中学校 校長）

・一番驚いたことは、副校長先生が指揮を執って点呼を取らずに子どもを避難させた判断力の高さです。校長先生が不在の場合、副校長先生だけでなく、教務担任の先生がリーダーになる可能性もあることを聞き、自分もいつ判断を迫られる立場になるかは分からないと思いました。正直、新任となる私はまだ関係ないと思っていましたが、教員の生徒に対する姿勢がもしもの時の分かれ目になるかもしれないと思うと、日頃からリーダーシップを発揮することは重要だと思いました。教師となったら生徒の命を守る立場になるわけであり、私自身のフェーズフリーの実践として、英語の授業と関連づけて、「もしも外国人の方から避難所の道案内を聞かれたら？」などの取り組みを行ってみたいです。

さらに、中学生のつぶやきが保護者、地域、行政を動かすというお話を聞いて、高校生にも活かさないかを考え、班で話し合いました。その際に、生徒会が呼びかけて避難訓練を行うことは参考となるのではという意見が出たので、教師となったらぜひ提案したいと思います。（大学 4年）



事例研究 学校を核とし、地域と一体となった防災教育の取組 櫻井敬子さん、藤本悠司さん

続いて、長門市立日置中学校の櫻井敬子校長先生と長門市教育委員会の藤本悠司主任（社会教育主事）による実践事例発表と研究協議を行いました。櫻井校長先生からは、推進の仕組みとしての「チーム日置」づくり、防災キャンプ等の実践と成果と今後の課題が、藤本主任からは、公民館がコーディネート機能を担う「長門スタイルの地域協育ネット」による防災安全の実践、地域の「つながり」づくりのもつ意義等が報告されました。お二人とも、学校や地元の紹介動画や美しい画像等も盛り込んでくださり、質が高くわかりやすい、見事なプレゼンテーション。貴重な「学び」の場を提供いただき、本当にありがとうございました。

参加者のコメントから

・藤本先生のご発表では、「地域学校協働活動推進員」を「公民館」がその役割を担う「長門スタイル」が大変興味深かった。公民館は社会教育の中心的な場であり、地域の人もそこに集う。その公民館がコーディネーターになることで、学校と地域がより繋がりを築きやすいと感じる。櫻井先生のご実践では、「チーム日置」という合言葉のもと、子どもも地域も教員も一人一人がチームの一員になって、防災教



育を始めとした学校・地域づくりをしておられる効果を十分に知ることができた。チームの一員となって協働して取り組むためには、目的や意義をしっかりと理解できていること、納得できていることが重要である。その点において、しっかりとその目的の共有がされておられたからこそ、子どもたちを始め、役割を担われた人たちが生き生きと取り組んでおられるのだと学ぶことができた。（小学校 教諭）

・これまで防災教育に対しての意識が低かった。櫻井校長先生や藤本主任の実践を聞き、より実効性のある防災教育の実践を重要だと感じた。特に教員主導型の避難訓練の脱却の重要性を認識した。教員の指示のもと訓練する防災教育を当たり前のように行ってきたし、何ひとつ疑問に感じてこなかったことを恥ずかしく感じた。生徒・教職員が当事者意識をもち、どのように行動すればよいかを考える防災教育を広めていきたい。（中学校 教諭）

・「公民館」を核とした地域連携を推進していることに教員の立場では非常にありがたいと思った。異動などによる継続的な取組の不確実性は多くの学校で起きたことがある現象と考えるから。同時に、防災・安全教育において学校が果たす役割の大きさも感じた。話の中にあった子どもがお願いしたら地域の高齢者が動いてくれた、という話に象徴されるように、子どもがもつ力は非常に大きい。その子どもの声を実現に移し、すでにある取組を活かしながら防災教育を進める日置中学校の実践も大変勉強になった。（高等学校 教諭）



・長門市内は中学校区で5つの「みすゞ学園」があり、それぞれ公民館がコーディネーター的な働きを担う形で地域連携が進められている。日置中の防災教育は日置ならではの取組が行われており、大変参考になった。防災キャンプ等については自分も興味を持っており、本校で取り組めるような機会があればぜひやってみたい。（長門市内中学校 校長）

・地震の際に、子どもたちが自主的に机の下に隠れて、「自分の命は自分で守る」を実践していたお話が印象的でした。また、そのことを保護者宛にメールを送信する櫻井先生の姿勢は見習いたいと思いました。日常での子どもの様子を保護者に伝えることで、保護者も安心したと思うし、子どもの自己肯定感も高まったと思います。キーワードを挙げるなら「熟議」です。単なる話し合いではなく、大人が口を出さずに、子どもだけで意見交換することがいかに重要かを学ぶことができました。深く話し合ったことが、いざという時に自分だけでなく、周りの人を救うことにもつながると思いました。（大学 4年）



カフェ 地域ぐるみの防災教育アイデアと学校や教員の役割

さすがですね。今回の「カフェ」を前に、参加者には「宿題という名の事前探求課題」が出してあります。日々の業務が相当に忙しい中ですが、さすがです！みんな見事に仕上げてきました！アッパレ！

体育館いっぱい、10のテーブル席を広げて「カフェ」です。なんかイイですね。「カフェ」しました。

参加者のコメントから

・「防火扉の鍵の在処（ありか）が分からない」と班で話題になりました。「あの防火扉の鍵、どこにあるんやったっけ？」と言っては、生徒の安全を確保できる保証はありません。今の自分の意識で足りているのか、元旦から大きな災害が発生する今だからこそ、常に自分に問い続けたいと思います。（中学校 教諭）

・現職の先生から、「災害が起こった際、教師として学校の子どもの第一を考えるのは勿論だが、親としては自分の子どものことをどう思っているのか」というお話がありました。ある先生は「複雑だが自分の子どもを信じるしかない」「普段から私は先生という職業だから何かが起こっても家には戻れない」ということを伝えていと言われました。家庭を持つようになると、学生の私には無い視点で、防災を考えなければならないのかと気づかされました。また、災害というものは様々な要因が絡み合い、複雑な課題をもたらすことが分かりました。教師となってもできることは少ないかもしれないけれど、物ごとを多角的に見ることは防災に限らず多くの場面で役立つと感じた瞬間でした。（大学 4年）



・私の班は、中学校の校長先生、高校籍の県教育委員会の先生、大学事務局の先生、そして小学校教諭

の私と、他校種や立場の異なる方々の集まりとなった。だからこそ、災害があった時や災害に備えるための協議の中で、管理職として情報をいち早く収集し適切なリーダーシップを図るための視点、担任として子どもたちを動かすための視点、備蓄等の備えの視点と、まさしくチームとしてどう役割を果たすかをそれぞれに出し合い、学校安全にあたる協議の場となった。（小学校 教諭）



・私のグループでは、フィールドワークの案がたくさん出ました。教員は異動があり、地域のことを知らないからこそ、地域の方、家庭の力を借りて、子どもたちと地域のことを学ぶ必要があると思いました。地域の避難場所や防災施設、地域でどこに AED があるのか、子ども 110 番の家はどこにあるのか、意識しないと分からないけれど、いざという時のために知っておかなければならないことだから、スタンプラリーやポイント性などゲーム感覚で地域のことを学べたらと思いました。（小学校 教諭）

講評

第1日目のまとめ（講評）を、長門市教育委員会学校教育課の原田健一郎課長さんにお願ひしました。研修での「学び」を整理してくださった上に、参加者に対する熱い思いと感謝の伝わる素敵なコメントをありがとうございました。



11月10日（日）長門市仙崎「青海島共和国」

講演 青海島共和国と地域の活性化 ～地域の課題解決と学校への期待～ 濱野達男 国王

2日目は、閉校になった青海島小学校を活用して建国された「青海島共和国」にて、ノスタルジックな校舎を活かし、地域の活性化を目的とした「体験交流の島・青海島共和国」として建国された「まちづくり」「ツーリズム」事業施設です。その中心にいらっしゃったのが濱野国王さま。青海島や共和国を愛する熱い思い、ご自身と共和国の歩みや仲間に対する感謝と期待等から溢れ出るお話は、まさに地方自治、住民主権の「神髄ここに究めり」の「炎の1時間」でした。濱野国王さま、ありがとうございました。

参加者のコメントから

・濱野国王様のお話は大変感銘を受けた。88年間の生きざまが伝わってきた。そして、今の自分自身の成長のためのヒントが多くあった。現在、うまくいかないことや問題点と向き合うことが多々ある。なぜ、先生方は動いてくれないのか。なぜ、自分だけこういう思いをしないといけないのか。今日の濱野国王のお話を聞いて、そのような気持ちになってしまうことが本当にちっぽけなことだと感じた。多くの問題と向き合い、その度に時間をかけて対話してこられたことが印象的であった。AIの進展など急速に変化する世の中ではあるが、今も昔も変わらず、人と人が分かち合うためには対話が重要であることを再認識した。青海島共和国を立ち上げてからのお話も大変興味深かった。立ち上げて、金銭面など課題に対しても、その都度知恵を振り絞り、しっかりと向き合い、よいものを創り上げようとされている。自分はどうしたいのか、何が大切なのか、信念をもって自分を信じて進んでいくことを教えられた時間であった。なかなか経験することができない時間を味わうことができた。（中学校 教諭）



・感動が大きかった。研修は知識や手法を学ぶものだと考えていたが、このように心を震わされる研修は非常に貴重だと感じた。地域の人の声が加速装置となり、取組の規模が大きくなった結果が青海島共和国なのだと思うと、山口県のどの地域にも可能性が秘められていると思った。それを見つけ出し、一歩踏み出すかが重要である。建国（組織開発）までの道のりや、組織を維持していくための取組などから得ることも多く、様々な面から学びの多いお話だった。（高校 教諭）



・最も印象深かったのは、その意欲です。いったい何があそまでの情熱や意欲を濱野さんに得させているのかということです。郷土愛は勿論でしょうが、それだけではないでしょう。健康であられるのも一因でしょうが、生まれてきて自分に与えられた使命を感じておられるからでしょうか。二つ目は組織開発です。自らが代表になられると同時に国会議員さんを任命され、旧青海島小学校を活用されての取組です。地に足を付け見通しをもって取り組まれている。三つめは、い



らぬお世話ですが、人材育成はどうされているのか、ということです。まだまだお元気なうちは現在の体制で継続実施されることと思いますが、次世代を育てるといふ大きなお仕事とおありでしょうから、そのお話も伺いたいと考えました。(大学教員)

・人生を映画化できるような人生を送られていると感じました。私が考えたいと思ったことは一口に地域といっても代表の人と話すだけでなく、

地域に住む全体と交流することの難しさです。コミュニティ・スクールのこともあり学校と地域が交流することは増えていますが、代表の方と表面的に話すだけでは本当に学校の課題、地域の課題を理解しそれを解決する方策になっているのか？という部分が怪しく、学校の教員が生徒一人ひとりに指導しながらよりよくするのと同様に、地域の方にも地域の方一人ひとりの意見を広く伺うことで全体の幸福がある地域づくりができると思います。そのために代表の方だけでなく、地域全体と関わりたいという態度でかかわっていききたいです。(大学 4年)

講義 土砂災害から命を守る～災害は忘れた頃にやってくる→忘れてならないへ！伊藤信行さん

青海島共和国の国会議事堂、国立博物館や迎賓館等のツアー（施設見学）を済ませた後は、NPO 法人山口県防災・砂防ボランティア協会理事の伊藤信行さんによる学術的な専門講義です。土砂災害に関する広報啓発用パネルを20枚近く用意していただき、土石流、地滑り、崖崩れの実相から命を守ることや危険予知の考え方やスキル等まで実に幅広い内容を教えていただきました。伊藤理事、ありがとうございました。

参加者のコメントから

・災害は他人事ではないことを改めて実感した。過去には、山口県内で数々の自然災害が発生して被害が出ている。隣の防府市でも過去に大雨による災害が発生した。いつどんな時に訪れるかわからないので日頃の備えが大切だと痛感した。また「災害は忘れた頃にやってくるのではなく、災害は忘れてはならない」という言葉が印象的だった。東日本大震災が発生したのは約14年前で、今の中学生はほとんど記憶がない。私自身も小学校2年生で記憶が曖昧な部分がある。しかし忘れてはいけない。過去の災害から学び、未来につなげていくことが大切だと思うので、教員として役割を果たしたい。(大学 4年)



・青海島共和国ツアーでも、島の地層や地形の歴史について詳しくお聞きでき、ずっと職業として専門性を極めてこられた方のお話は大変学びとなった。災害は突然起こるものではなく、土地や気象等の変化や影響によって起こるものだという事。ということは、地域の情報や専門機関から出される情報に、きちんとアンテナを働かせて、防災の意識を一人一人がもっておく必要があるということである。自助・共助と言われるが、公助の視点も入れながら、知識と情報を敏感にキャッチしておく大切さを改めて気づかせていただいた。(小学校 教諭)

・「災害は忘れてはいけない」が、そもそも「知らない」ということが下の世代には起きてくる。「起きた事実を知る」ということも防災教育だと思うが、現在の学校では、今日受けたような詳細の学習は仕込まれていない。社会科や理科の活動で自然災害について各科目の視点から学ぶ單元もあるので、その時に郷土の災害の歴史を取り上げることができると感じた。また、教師自身の知識不足の指摘もあったがその通りだと思う。幼少期に家の裏山で遊んでいたが、実はそれが「不透過型砂防堰堤」であったと、今回いただいた資料で初めて知った。興味の有無に関わらず、災害についての知識を付けるということの必要性を考えると、やはり義務教育段階で義務付けて行う必要性があると思う。(小学校 教諭)



・私の生まれた防府にも災害は身近であるということを感じ知った。被害があったのはつい最近のことであるはずなのに、その備えは怠っていた。防府の一員として認識を改め、児童らを守る教師としての自覚をもち、今後起こりうる災害への情報収集・避難対策を考えていきたいと思った。(教職大学院 1年)

閉会行事

2日間の研修行事を振り返り、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が閉会挨拶を行い、無事に終了しました。

天候に恵まれ、各地からの参加者も「長門市観光」や「お土産買物ツアー」もできたようです。1日目の夜には、地元の先生方や施設職員さんにも入っていただき、賑やかな「交流会」もさせていただきました。長門市教育委員会、油谷青少年自然の家や青海島共和国の皆さんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。（事務局）



地元の先生方や参加者から、県内各地での「巡回公開講座型」についてコメントがありました。

参加者のコメントから

・今回は長門市での開催だったが、同じ班に「長門市で開催されるということだったので参加したいと思った。」と言われた方がいらっしゃった。普段は山口市内での開催が多いが、県内様々な場所で開催することで、普段参加したいけどできない方が参加できるようになると感じた。様々な方が参加することで多くの視点からの意見を聞くことができ、より充実した研修になると思うので今後も開催していただけたらと思うと同時に、私も参加したいと考えている。（大学 4年）

・お刺身とあじフライ美味しかったです！！県内巡回型の講座にすることで、その地域の先生方が初めて参加される、学びの輪が広がる等の点でとても有意義なものであると考えます。また私は県内育ちですが長門市に行くことがほとんどなく、「この市町ってこんなことがあるのか！」と再発見できるところも良さだと感じます。（大学 4年）

・それぞれの市町が「主役」となる研修会があることは、とても効果的だと思います。無理はできませんが、可能な範囲で、市町の研修会と合同にするなどして継続できるとよいと考えます。（大学教員）

・現地を訪れその場で話を聞く機会はとても良いと感じた。一日目も二日目もとても歓迎していただきありがたかった。改善点としては、宿泊を伴うと参加が難しかったり、一旦自宅に戻ってから遠方に再度移動しなければならない参加者も出てくるので、宿泊を伴わないか、一日で収まる日程になると嬉しい。なかなか行く機会がなかった長門市を訪問することができ楽しかったです。（小学校 教諭）

・県内の市町ではそれぞれの実情にあわせて、力を入れて実践されていることが当然違うと思います。県内を巡回する形で、それぞれの市町において研修をすることは、その強みを学ぶことにもなるので、得られる学びの質は必然的に向上すると思います。遠方であれば、移動時間や方法も考慮に入れる等の負担は大きくなるかもしれませんが、その分充実した研修になると思います。（中学校 教諭）

地元長門市の先生方から

・より多くの教職員が参加できるよう県内各地で開催していただきありがとうございます。わがまを言えば、長期休業中の平日開催、土・日開催の一日、あるいは3連休初日等であれば、教職員はより参加しやすいと感じます。森本先生のような専門性のある講師による講演等は、普段の研修会等では実現できない機会なので、オンライン受講等も可能ならより参加しやすいと思いました。（中学校）



・山口大学の「ちゃぶ台」研修は、全国的にも先進的・改革的な取組として有名で、教職員研修の面でも大変すばらしい機会と感じています。巡回していただくことで、その場所の教職員が参加しやすくなり、教職員の力量形成、資質向上にも貢献されていると感じます。ありがとうございました。（中学校）

・こういった研修、特に県内各地に出かけての研修の企画や運営、事前の交渉、連絡調整や各種手配等は相当なエネルギーとかなりの時間が要すると思います。今回の案内を拝見した時に、まずはそれを思い、感謝するとともに喜んで申込をしました。日頃、なかなか受けられないような講師の方や大学の先生方と出会える研修の機会は本当に有り難いです。また長門市にも来ていただけると嬉しいです。（小学校）

ありがとうございました。

貴重なご意見、ご提案をいただきました。私たちは、山口大学に教職大学院や NITS 山口大学センターがあることで、県内の先生方（教職員）、学校や教育界にとって「少しでも良いことがあれば！」と考え、教職大学院（教職員、院生）、NITS 山口大学センター（スタッフ）として「巡回公開講座型」に取り組んでいます。全県域の教職員研修の活性化に繋がるのであれば「なんでもやりますよ！」引き続き宜しくお願いいたします。

令和5年度実績と令和6年度計画

主催：山口大学（教育学部・大学院教育学研究科・NITS山口大学センター） 共催：山口県教育委員会・山口市教育委員会



コーホート (cohort)

同一の性質を有する同年齢集団 → 教職という立場や志でつながる同年代の仲間たち

ちゃぶ台次世代コーホートの基本

- ・学生、現職・大学教職員、教委関係者等による教員養成・教職研修プログラム
- ・自主的・自発的な実践・研修意欲を尊重した各ステージリーダーの育成
- ・週休日を中心とする年間10回の連続・積み上げ型研修の実施（6月～3月）

参加者が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、理論的・科学的考察を行うとともに、実践と省察の往還、経験の共有をとおして自立した個として成長し続ける

2023年度の研修の実際

第1回 6月17日（土）午後 山口大学

「山口県教育の現状と課題 ～充実期教員への期待～」

山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之

「困難や危機を乗り越えた学校がやったこと ～春日中学校のその時～」

追手門学院大学（前 奈良市立春日中学校 校長） 坂本静泰

第2回 8月26日（土）午前 セントコア山口

「この国の価値を次世代につなぐ ～起業家精神をもって生きること～」

株式会社「aeru（和える）」 代表取締役社長 矢島里佳

第3回 10月14日（土）午前 セントコア山口

「フィンランドから眺めた令和の日本型学校教育」

信州大学学術研究院・教育学系 教授 伏木久始

第4回 10月14日（土）午後 セントコア山口

「教職経験、教職への思いから、教職のやりがい、面白さや魅力を語ろう」

ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 会員（現職教員）

「教職の仲間たちを増やすために～教職志望者の拡大をめざす大作戦～」

山口大学教育学部・教育学研究科（教職大学院） スタッフ

2023年度の研修の実際

第5回 11月 3日(祝)午前 周南市徳山動物園(フィールドワーク)

「動物たちの生態と人との距離」

周南市徳山動物園 園長補佐(獣医師) 木原一郎、飼育員

第6回 11月 3日(祝)午後 周南市立徳山駅前図書館

「周南市の教育について」

周南市教育委員会 教育部次長・教育政策課長 十楽さゆり

「アスリートとして生きること ～不可能とは可能性のこと～」

日立ソリューションズ「チーム AURORA」スキーマ 新田佳浩

(「平昌パラリンピック」金メダル、2023年「ワールドカップ」銅メダル)

第7回 12月23日(土)午前 セントコア山口

「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い(保護者との座談会)」

山口県PTA連合会役員(10人)

第8回 12月23日(土)午後 セントコア山口

「社会の変化とこれから学校教育～主体性と当事者意識～」

横浜創英中・高等学校 校長 工藤勇一

2023年度の研修の実際

第9回 2月10日(土)午後 山口大学

「会員による実践・研究成果発表・交流会」

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 会員(現職教員)

特設 3月16日(土)午前 山口大学

「1年間の研修を振り返って(省察)」

第10回 3月16日(土)午後 山口大学

「インクルーシブ教育システムの構築」

新潟大学大学院教育学研究科

教授 長澤正樹

Everywhere you want to be! 2023

[NITS カフェ]・「ちゃぶ台」合同研修会「学級通信」
[NITS カフェ]・「ちゃぶ台」次世代コーホート連合事務局
2024.1.10
NITS 山口大学センター・教育学部・教育学研究科

「子どもたちの学び、育ち」、「この国の先と学校の姿」をど真ん中に置いて、
学校と家庭のつながりや学校教育のあり方を考えた「NITS カフェ」でした!

12月、山口市はクリスマス市になる...! まちがとてとても綺麗な12月23日、前日に終業式を済ませたばかりの先生たち、冬季休業目の学生たちが集まって、本年度2回目の「NITS カフェ(保護者と創造する学校の未来づくりセミナー)」を開催しました。

終日の研修行事にもかかわらず、茨城・大阪・広島・山口・福岡からの参加者は74人。現職教員32人(小15、中10、高5、特支2)、学生16人、教委担当者3人、大学関係者13人に県PTA連合会の皆さん(9人)とオンライン登場の工藤勇一先生。

寒い日でしたが、ホットでエネルギーが湧く Cafe! 充実した学びの概要を報告しましょう。

カフェ(ちゃぶ台 WS)「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い」
指導助言者(いつも元気な保護者を代表して) 山口県 PTA 連合会の皆さん

山口大学大学院教育学研究科の廣岡 亮 研究科長さんの開会挨拶に続いて、早速「カフェ」です。年齢、地域、職種、校種や立場等の異なる人たちが、心地よい空気感の中で語り合えるのが Cafe の魅力。保護者の皆さんの元気、勢い、やる気も加わって「勢いと未来志向の Cafe」って感じでした。ご参加下さった保護者代表の皆さん(学校・市・県 PTA 役員経験者)は、佐伯弘明・佐々木智美・辻本千夏・友里里絵・西川仁了・松田龍信・松永英治・松原真奈美・溝口憲治さんでした。年末にもか

多様な人材(みんなが健康者である、みんなが特性をもっている)が、互いを尊重し、一人一人の人間同士として関係を構築し、一緒に生活していく社会が実現できるように、子どもたちや保護者、地域とともに、学校での取組が進んでいくよう、頑張りたいと思います。(中略)

会場に集ってくださった参加者の皆さん(一部)と事務局さんで記念撮影(左端、メダルも一緒に! 野田さん、かついいます!)

「巡回型講座」や今回から始めた「託児サービス」についても意見を言いました!

昨年度は「下松市」と「宇部市(オンライン)」で、本年度は「周南市」で開催しました。地元教育委員会の方々に共催・会場確保・運営協力等で大変お世話になりました。

また、今回から「託児サービス」を始めました。「学び続ける教員」の育成、キャリアの形成支援や子育て支援、働き方改革に資する課題と捉え、県(こども・子育て応援局)と相談しながら実施しました。当日は、佐々木先生、周南市の行村弘子さん、幼児教育コース4年の井手佳奈さん、水村佳奈さんという保健師・看護師・保育士揃いの「保活な布陣」(笑) 大変お世話になりました。4人の託児者の皆さん、ありがとうございました。

受講者のコメントから

山口県について知ること、県内の様々な地域差について理解を深めることを目的とした地域研修は、とても面白い企画だと思います。自分ではなかなか行くことができない所に行く機会を貰えることは貴重です。また、今回のように開催都市の教育について、行政の方からお話聞けるのが有意義です。「うちの市ではどうなってるんだろう?」と、所属市町の教育行政について関心を持つきっかけになります。ぜひ今後も取り入れていただきたいです。(小学校)

フィールドワークを振り返った終日研修で、日頃の研修では学ぶことのできない内容で、地域を知ることでできる機会になりました。公共交通機関移動ができる場所であったため、駅周辺や昼食を含めた散策ができるなど、移動を含めて学ぶ機会の確保につながっていました。県全体を数年単位で回っていくことで、勤務地以外の土地を知るチャンスになると、学部生だけでなく現職教員も学びを深めることができたと感じました。(小学校)

託児所開設は、今後の研修体制、キャリアアップの観点から大きな一歩となる体制づくりに感じました。体制を整える、環境を整える、人材を確保する等、様々なハードルを越えて実現できたことが、様々な立場の方のキャリアの支えになると確信しています。実際に利用された先生は、大変ありがたいサポートであったと思います。学部生の実地研修の一面も兼ね備えていたので、プラスの面が多かったです。運営側の負担感は想像してはいますが、とても感謝する体制づくりに感じました。(小学校)

山口県外の開催は、他の市に目を向けるきっかけにもなり、非常に刺激のある研修でした。また、託児所などの配慮もあり、子育てをしながら研修会に参加されているお母さんの姿を見て、私自身も頑張ろうと思いました。大変お世話になりました。(総合支援学校)

教員対象の研修会で「託児サービス」は初耳だったので、よく考えると、民間企業の女性社員対象(女性社員に限定することは別の意味で考えものと思うのですが)や、若い世代の参加が多い資格取得の講習会、子

2024年度の研修計画

- 第1回 令和6年 6月15日(土) 13:00~17:00 山口大学
「山口県教育の現状と課題 ~本年度の重点施策~」
山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之
「山口県教育委員会による学力向上の取組」
山口県教育庁義務教育課指導班 主査 中野大輔
- 第2回 令和6年 8月24日(土) 13:00~17:00 山口大学
「リーダーとは~これからの学校におけるミドルリーダーシップ~」
岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇
- 第3回 令和6年 10月12日(土) 9:30~12:00 山口大学
「山口への感謝、貢献と企業文化、組織風土の醸成」
あさひ製菓株式会社 代表取締役社長 坪野恒幸
- 第4回 令和6年 10月12日(土) 13:00~17:00 Basic 第1回 山口大学
「マンガをとおして伝えたいこと ~ボクらはサブカルチャーで育った~」
漫画家(周南公立大学経済学部 特任教授) なかはら かせ

2024年度の研修計画

- 第5回 令和6年 11月 9日(土) 13:00~17:00 Basic 第2回
長門市「山口県油谷青少年自然の家」(NITSカフェ①) (宿泊研修)
「地域防災力の向上に向けて ~東日本大震災の経験から~」
岩手県立図書館 館長 森本晋也(前 文部科学省安全教育調査官)
- 第6回 令和6年 11月10日(日) 9:00~12:00 Basic 第3回
長門市「青海島共和国」(NITSカフェ①)
「青海島はマグマの博物館 ~防災・安全意識を高めるためにも~」
青海島共和国 国王 濱野達男
山口大学(理学部) 名誉教授 今岡照喜
- 第7回 令和6年 12月21日(土) 9:30~12:00 Basic 第4回
山口市「セントコア山口」(NITSカフェ②)
「子どもたちを真ん中において(保護者との座談会)」
山口県PTA連合会 役員
- 第8回 令和6年 12月21日(土) 13:00~17:00 Basic 第5回
山口市「セントコア山口」(NITSカフェ③)
「不登校対策のありよう ~多様な子への理解を現場から~」
広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 栗原慎二
山口市立大内中学校 教頭 中川真治
萩市立川上小学校 校長 山本豊三

第9回 令和7年 2月 8日（土） 13:00～17:00 Basic 第6回

山口大学

「外国人の目から見た日本 ～この国の価値と課題～」

京都先端科学大学 (KUAS) 国際センター アラン・チャンブリス

「留学生対応の実際から ～多様な人間集団を束ねる時に～」

京都先端科学大学 (KUAS) 総務部 兼子奈生子

「会員による実践・研究成果発表・交流会」

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

ちゃぶ台次世代コーホート会員

特設 令和7年 3月15日（土） 9:30～12:00 山口大学

「1年間の研修を振り返って（省察）」

第10回 令和7年 3月15日（土） 13:00～17:00 Basic 第7回 山口大学

「教科と探究をどうつなぐか ～対話型論証を中心に～」

京都大学大学院教育学研究科 教授 松下佳代